

闇に浮かび上がる能舞台、

水面に揺らめく二本のかがり火、

野村万作・萬斎親子が舞い謡う―。

野村万作 新狂言の会



出演	野村万作	野村萬斎	石田幸雄	他
演目	狂言「宗論（しゅうろん）」	狂言「瘦松（やせまつ）」	狂言「蝸牛（かぎゅう）」	



2015. 10/4 (日) 開場 17:30
開演 18:00

黒部市国際文化センター
コラーレ (野外能舞台)

全席指定 一般5,000円 高校生以下1,000円 障がい者手帳をお持ちの方4,000円

■当日は17時20分に、チケットの「整理番号」順に整列の上、順次ご入場いただけます。
チケットはコラーレだけで発売いたします。

- この公演は黒部市の助成により低料金でお楽しみいただけます。
- 未就学児の入場はご遠慮願います。公演中、未就学児を対象とした「一時保育（無料）」を実施しています。公演1週間前までにお申し込みください。
- 雨天が予想される場合は雨合羽等をご用意ください。天候によっては、会場がカーターホールに変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

主催/公益財団法人黒部市国際文化センター 共催/チューリップテレビ 後援/黒部市 黒部市教育委員会 北日本新聞社

●お問い合わせ●

コラーレ 〒938-0031 黒部市三日市20番地 TEL.0765-57-1201
開館時間:9:00~22:30(土曜~23:00) / 毎週水曜日休館

秋の風情を感じながら

今年も秋の風情の薪狂言でございます。今回は、「宗論」「瘦松」「蝸牛」という3演目を選びました。「宗論」は、柔と剛二人の性格の僧の対立を、中堅の仲間入りと言ってもいい深田と高野の両シテでお贈りします。狂言のわわしい女に、まんまとしてやられてしまう山賊が登場する「瘦松」は、石田シテで逆転のおかしさを。留めには私と萬齋の両シテで、山伏物の「蝸牛」で和楽の世界を演じます。趣の異なる演目から、狂言の幅広さとその人間模様をお楽しみ頂ければ、幸いです。

世村万作

のむら まん さく
野村万作

狂言師



一九三一年生。重要無形文化財各個指定保持者（人間国宝）。祖父・故初世野村萬齋及び父・故六世野村万蔵に師事。早稲田大学文学部卒業。「万作の会」主宰。狂言の秘曲である「釣狐」の演技で芸術祭大賞を受賞した他、紀伊國屋演劇賞、日本芸術院賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞、朝日賞、旭日小綬章など、多くの受賞歴を持つ。国内外で狂言普及に貢献し、ハワイ大、ワシントン大では客員教授を務める。古典はもとより新しい試みにもしばしば取り組み、代表作に「月に憑かれたヒコ」「子午線の祀り」「秋江」「法螺待」などがある。著書に「太郎冠者を生きる」（白水社）、「狂言三人三様・野村万作の巻」（岩波書店）がある。

のむら まん さく
野村萬齋

狂言師



一九六六年生。野村万作の長男。祖父・故六世野村万蔵及び父に師事。重要無形文化財総合指定者。東京芸術大学音楽学部卒業。「狂言ござる乃座」主宰。国内外の狂言・能公演はもとより、現代劇や映画の主演、古典の技法を駆使した作品の演出など幅広く活躍。九四年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、紀伊國屋演劇賞、朝日舞台芸術賞、二〇二二年芸術祭優秀賞等を受賞。著書に「萬齋でござる」「MANSARU◎解体新書」（朝日新聞社）、「狂言三人三様・野村萬齋の巻」（岩波書店）等がある。世田谷パブリックシアター芸術監督。

いしだ さいゆう
石田幸雄

狂言師



一九四九年生。野村万作に師事。重要無形文化財総合指定者。「雙ノ会」主宰。数多くの優れた舞台歴を持つ野村家の重要な演者。また新しい試みの舞台にも意欲的な発表が多い。普及公演での的確な解説にも定評がある。「万作の会」の海外公演にもたびたび参加。日本大学芸術学部、学習院大学非常勤講師。「雙ノ会」で二〇〇六年度芸術祭大賞、二〇一一年観世寿夫記念法政大学能楽賞を受賞。

薪狂言 番組

解説 野村萬齋

火入れの儀

狂言

宗論 しゅうろん

身延山から帰る途中の法華僧と、善光寺帰りの浄土僧が道連れになるが、互いに犬猿の仲の宗派と知り、自分の宗旨に改宗せよと言いつ争う。嫌気がさした法華僧は口実を設けて別れようとするが、浄土僧はしつこくついて来る。たまたまなくなった法華僧が宿に逃げ込むと、浄土僧も追って入り、今度は宗論（教義問答）を始める。二人は次第にむきになって……。

中世の宗教対立を背景に争う、浄土僧と法華僧の、柔と剛の対照的な表現が見どころの名作です。泥沼化する争いの果ての結末は？ 二人の掛け合いの妙をお楽しみください。

浄土僧 深田博治

宿屋 内藤 連

法華僧 高野和憲

後見 岡 聡史

狂言

瘦松 やせまつ

丹波の国（現在の京都府・兵庫県あたり）に住む山賊が、最近稼ぎが悪いので、今日こそ何とか獲物を得たいと谷間に隠れていると、女が通りかかる。山賊は長刀を振り上げて女を脅し、持ち物を奪い取って獲物を物色するが、隙をつかれて女に長刀を奪われてしまう。長刀を向けられた山賊は手も足も出なくなり……。

タイトルの「瘦松」は、獲物のない時を指す山賊言葉で、反対語は「肥松」となります。さて、山賊の行く末はどうなるのでしょうか。山賊と女の掛け合いをお楽しみください。

山賊 石田幸雄 女 中村修一

後見 内藤 連

狂言

蝸牛 かぎゅう

修行を終えて帰る途中の山伏が竹やぶで休んでいると、主人の命で、長寿の薬になるという蝸牛（かたつむり）を捕りに太郎冠者がやってくる。太郎冠者が山伏を蝸牛だと思ひ込み声をかけると、面白がった山伏は蝸牛になりすまして太郎冠者をからかう。さらに山伏は、囃子言葉に浮かれてなら同行しようと、太郎冠者にかたつむりの囃子言葉を教え……。

観ていると心も体もうきうきとしてくる楽しい作品です。「でんでんむしむし」という囃子言葉が何回も出てきますので、登場人物と一緒に浮かれてみてはいかがでしょう。

山伏 野村萬齋

主 岡 聡史

太郎冠者 野村万作

後見 月崎晴夫